

自 己 評 価 書

(令和6年度)

令和7年2月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	3
	1. 教育課程・指導	3
	2. 保健安全管理	11
	3. 組織運営	16
	4. 研究と研修	19
	5. 教育環境整備	23
	6. 教育実習	25
III	自己評価別添根拠資料一覧	32

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成
3歳児1学級、4歳児2学級、5歳児2学級
保育課程 2年保育、3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(令和6年5月1日)
幼児数130人 教員数7人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する 科学的研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。
- ⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。
- ⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

(4) 令和6年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の3点から教育目標の具現化を図る。

- ①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ②「遊誘財」研究の成果を生かし、現代的な教育課題に係る研究・実践を推進する。
- ③大学、教育委員会との共同研究・研修を推進する。

(5) 評価項目

①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ・科学的思考を促す幼小接続の生活プラン（教育課程・指導計画）作成に関する取り組み

状況

②保健安全管理

- ・保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況
- ・危機管理対策の見直しと強化

③組織運営

- ・園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況
- ・教員のキャリアステージに応じた資質・能力の向上

④研究と研修

- ・幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
- ・教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況
- ・地域住民への貢献

⑤教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況
- ・みどり会（保護者会）との連携

⑥教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

Ⅱ 評価項目ごとの自己評価

評価項目1 教育課程・指導

(1) 観点ごとの分析

観点1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

【観点到る状況】

本園では、幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の伝統や特性を生かした教育課程・指導計画である「生活プラン」による保育を進めている。

本園の保育理念である「子どもと創る保育」は、環境を通して子どもが主体的にかかわろうとする過程において子どもはよく考え、真剣に物事に向き合い、状況や雰囲気をよく感じながら感性を十分に働かせる。その経験そのものが「学び」であるとしている。それを可能にするためには、環境の一つでもある保育者の基本姿勢が重要である。

「子どもと創る保育」に示されている保育者の基本姿勢は次のとおりである。

○保育の基本姿勢

人の生涯の基盤となりうる「人間性」を養う保育を旨としている

1. 真に子どもたちのための保育を創造すること
2. 豊かな環境作りを重要な任務とすること
3. 子どもらしく遊ぶ生活を創造すること
4. 子どもたちの可能性を信じて、一人一人に合わせた指導をすること
5. 子どもと共に子どもの自治を大切にしたい園生活を営むこと

「子どもと創る保育」に示されているこの基本姿勢の内容は、読めば納得であるが具現化が非常に難しく、意味を取り違えたり、「一方的な指導」になってしまったりすることが多く見られる。本来、主体的で創造的な生活を支えるべき保育者が、幼児の主体性や創造性をいかすことなく、日々の保育をこなしていくようなことになることを見極め、日々改善していく必要がある。

昨今、保育サービスが増大し、「子ども子育て支援」といいながら「子育て支援」に力が入れられており、それによる現場の過負担や重労働がさらに加速し、それに比例して事故や事件が増えている要因にもなっている。また、働き方改革が進められているが、保育者個人を守り優先することという本来の働き方改革とは違ったところで解釈されており、キャリアステージにおける資質・能力を身に付けることや、教育への志といった使命感の部分が薄れていると考える。そのような中、保育者の基本姿勢は保育・教育現場で、保育者自分自身を見直すこと、原点に立ち返ることを投げかけている。どれだけ豊かな環境があったとしても、保育者の姿勢次第では保育本来の質が確保できないのが現状である。

これらも踏まえ、今年度の本園の研究テーマを「遊誘財研究をいかした保育者の専門性向上への取り組みー子どもの主体的・創造的な生活を支える保育者の在り方ーとし、「保育者の姿勢」の観点を意識することで、子どもの内面や思考の読みとりが深まるようになる。保育が豊かに展開されると「遊誘財」や一貫型教育プランの「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」が遊びの中で総合的に幼児の学びにつながる。

このように教育課程を進めていく上でも、書いてあることをそのまま行うのではなく、その日々の生活や指導の中に、「保育者の基本姿勢」があることが重要である。本園では、

それぞれの担任と担当者が、毎月の指導計画の具体化を行っている。それにより自分以外の保育者の考え方に触れたり、他の保育者からの意見を聞いたりすることができる。幼児理解や関わり、日々の生活の中に幼児の学びや成長があり、それらが教育課程によって確かに示されていることや支えられていることを実感し、文字が表すその豊かで細やかな内容を実際の保育として具現化できるように進めていく。

国立教育政策研究所教育課程研究センターの事業である、令和6年度教育課程実践検証協力校となり、教育課程の基準の改善充実等に必要となる情報の提供を行った。調査官による実地調査では、教育課程の実施状況や現代的課題への取り組みの状況、指導計画の具体を実際の保育や子どもの姿を通して説明をした。

【分析結果と根拠理由】

「生活プラン」の月別指導計画シートを作成し、各担任・担当が毎月これを活用し、指導計画の具体化を図っている。それを持ち寄り、全体打ち合わせと指導の評価を実施し、カリキュラム・マネジメントを行った。

毎月の指導計画の具体化シートを持ち寄っての職員の共通理解や子どもの姿をどう捉えるかなど話し合いをしながら、日々の保育が質をともなっていくように保育の計画や見直しを細かく実施した。

合同研究会では、「子どもを信じるとは」について、事例を通して議論を繰り返した。実際の保育の中も、その問いをもちながら日々の保育を進めている。

園全体が存分に生活できる場であり環境を通して行う教育や幼児の主体性・創造性を大切にされた保育が展開されている。生活が豊かに動くということが日々の積み重ねや幼児の成長から保育者自身が実感できつつある。豊かさや子どもの主体性・創造性に生活を支える保育者の在り方を模索し続ける保育者によって、教育課程・指導が充実したものとなっている。それは今年度の保育参観者の多さやアンケートにもあらわれている。

令和6年度附属幼稚園オープンスクール（来園者：アンケート回答者：51名）のアンケート集計結果によると、本園の保育については98%の保護者が「とてもよい」と評価している。

令和6年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（一部抜粋）【別添資料1-①】

実施日	令和6年11月3日（日）		
対象	オープンスクール参観者		
	保護者・一般参加者	250名	（アンケート回答者 51名）
内容	1 保育について	3段階評価及び自由記述	
	2 環境整備について	3段階評価及び自由記述	
	3 その他感想・意見	自由記述	

アンケート集計結果	
○保育について	
・とてもよい	50名（98.0%）
・あまりよくない	0名（0.0%）
・どちらでもない	1名（2.0%）
・記入なし	0名（0.0%）

○環境整備について

・よく整っている	47名 (92.0%)
・もっと整えて欲しい	0名 (0.0%)
・どちらでもない	4名 (8.0%)
・記入なし	0名 (0.0%)

保育について自由記述の概要 (原文のまま)

【子どもたちの様子】

★子どもが生き生き・のびのび・楽しく

- お話を聞くと子供がのびのびと遊び学べる場なんだなと思いました。
- 活動中の子ども皆が楽しそうに笑顔だったので とても良いなあとと思いました。
- 子供たちが伸び伸びと自由に遊んでおり、みんな生き生きとしていました。
- 子供達が楽しそう。

★自主性・主体性・遊びを大切に

- 自主性を尊重し、自立心を養いたくましい子どもに育つよう見守る保育と感じました。
- 子供達がのびのびと過ごしていて、自然と好きな事に打ち込める環境が整っていて素晴らしいと思いました。
- 子供主体で活動する為、大人が思いつかないような新しい遊びが生まれていました。その瞬間に立ち会えた事を嬉しく思います。
- 先生方の日々の工夫が多く見られ、家庭教育では体験させられない様々な取り組みに子どもたちが自主的に取り組んでいる様子に感心しました。

【幼稚園・教師について】

★教育方針・指導理念

- 自由に遊ぶ時間だけでなく、みんなで一緒に遊ぶ時間があり、バランスよくお外でも遊べていたことが良かったです。
- 子どもたちが遊びながら自らの課題に真剣に取り組む様子が見えました。先生も困っている園児がいたら様子を見てから介入していて子どもたちの自主性を重んじて個人を尊重しているように感じました。
- 自主性を重んじる風土が感じられました。躰の点で児童への指摘や指導が必要と感じる場面は日常的に発生します。その中で早急に介入するのではなく、事の成り行きや顛末を見守った上でサポートする教育体制との印象を受けました。私個人としては大人の価値観を優先させるのではなく、児童自身の人間性や思考を尊重しているように見受けられました。
- 地球上の「陽だまり」を全て集めたような暖かくて優しい附属幼稚園に息子が通えた事を心から感謝します。素晴らしい絵本をありがとうございました。
- 他の学年のクラスも参観できて、勉強になり楽しく過ごせた時間でした。
- 子どもの意欲を止めない学習環境になっている

★季節感や自然を大切にした保育展開

- 特に、動植物との触れ合いの場が充実していたなど、子供達の発育に、良い環境であるとすごく感じた。
- 季節の花や植物がみられ自然がたくさんあるとともに、遊び道具、工作道具もやりたい時にいつでもできる環境が整えられていました。
- ウサギ・カメ・フナ・金魚・エビなど生き物、とうもろこし・稲・野菜・花などの植物が園内所狭しと生息しており、命の大切さや命を頂くといい過程が身近に感じら

れる環境だと思いました。

- 教室の中を見ると、さりげなく季節や生き物に関する絵本や物があって、これはなんだろう？と子どもが考えるきっかけ作りになっていると感じました

★教師の姿勢・指導力

- 先生たちがよくみてくれている。
- 一人ひとりに向き合ってくださいながら、広い視野で保育されていました。
- 子供たちがのびのびと遊んでいたこと。子供たちが選択できる環境がとても良かったです。
- いつも子供のしたいことに寄り添ってくださり、家ではできない経験をさせてくださり感謝しています。
- 先生方に見守られてる中で園児が自由に遊んでいるのが素晴らしかったです。
- 子どもの要望に先生方が、出来る限り答えている姿が何回も見受けられました。また大人数を数人で保育していますが、一人で寂しそうにしている子がいませんでした。先生の誰かが必ず寄り添っているといった印象を持ちました。
- 教室によって先生のカラーが違うのか雰囲気それぞれありつつ、子どもたちが自ら遊び成長している環境が本当に有り難いと感じております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- 子供たちがそれぞれ自由に遊んでいる側で、先生方が連携を取りながらちゃんと見てくださっており安心しました。

環境整備について自由記述の概要

★全般に整備状況

- 以前から行き届いた掃除、遊具の整備、危険物の排除など行き届いていると思っていましたが、最新鋭のウェブカメラの設置などアップデートの努力をされている事がすごいと思います。
- 設備や道具に年季は感じるものの、基本的な体の動きや手指の訓練、言語教育などを疎かにせず、消耗させる部分は消耗させて創造性を育む環境を構築している雰囲気を感じました。
- 子どもたちの工作などが沢山あっても自然に整えられてると感じ、とても空気が澄んでいて居心地が良かったから。
- 季節の植物がたくさんあって自然の中で遊べるのが特にいいと思う。先生たちの努力がすごい。

★安全管理

- 子供たちがそれぞれ自由に遊んでいる側で、先生方が連携を取りながらちゃんと見てくださっており安心しました。
- 子供たちの遊ぶ環境としては良いと思いますが耐震等について気になります。
- 子供達に関心を持つように整備されているが、狭さと古さは感じる。

★遊具・素材・材料等

- 落ち葉や草花、べちゃべちゃの泥、水たまりなど自然と触れ合える環境が特に整っていると感じました。またどこに何が仕舞ってあるか子どもたちも理解し自分で準備して遊んでいたのも物事の順番を考えながらより楽しく活動できていたと思います。
- 子どもたちが好きそうなものがたくさん溢れていました。良い環境だと思いました。
- 室内でもたくさんの遊びが用意されていて、自由に毛糸が使えたり、お外ではダンボールの滑り台を自分たちで修理しながら遊べたり、走り回る子供たちが安全に過ごせるように整備されているなどと思いました。

その他について自由記述の概要

- 子どもがお世話になりありがとうございます。私自身も卒園生で、部分的に記憶がよみがえり、懐かしかったです。また、当時幼稚園児だった私を迎えにきていた祖母の気持ちやイベントに戸惑いながら参加していた様子の私の親の気持ちを垣間見たいがしました。
- 兄弟や祖父母も見られるいい機会となっております。
- 普段、保護者から見えないところでのご尽力を垣間見ることができました。感謝申し上げます。
- 開放的な空間で好奇心旺盛な心が育つ最適な場と感じました。
- 我が子の遊んでいる様子を見るのに時間をいっぱい使ってしまいましたが、他の学年のクラス等にももっと見学に行けばよかったです。しかし、子供達のがのびのびと遊ぶ様子を見ることができとても有意義な時間を過ごすことができました。

このような、本園の教育への理解には、これまでの伝統と継承され続ける教育課程、その教育課程についての研究を行っていることが大きな要因であると考えます。これらの基本の部分をもって実際の保育から感じられたり観えたりしたことが、教育課程の実施の有効性や幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導が実施できているという評価につながっている。

- 別添資料 1-① 令和6年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
- 別添資料 1-② 令和6年度幼稚園評価アンケート結果報告書
- 別添資料 1-③ 生活プラン

観点1-2 幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムの実施と改善に関する取り組み状況

本学の推進する幼小中一貫型教育プランの一つである、「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」のもと、積極的な幼小の合同保育／授業の展開と改善がなされている。文部科学省は、幼小架け橋プログラムを推進しておりカリキュラムの作成にとどまることのない実践を求めている。これを受け、再度幼小接続について基本を確認したり、小学校教諭への説明や情報提供を行うことで、互いの教育の理解の深まりや、幼児・児童の成長発達をつながりが捉えられるよう「ねらい・内容」に実践に沿っているかどうかを確認しながら実践を行った。

また、本大学の第4期中期計画・中期目標である、附属校園が連携したSTEAMIC教育の推進では、幼児期の遊びの中に「どのような」学びが捉えられるのかを遊誘財が遊びを誘発するプロセスや幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムを活用し、事例分析しSTEAMICの要素を洗い出している。さらに、教育県教育委員会や郡市教育委員会が実施する法定研修や基本研修、県・郡市幼児教育研究会でも、幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムやSTEAMIC教育研究の県下への普及を図っている。

【観点に係る状況】

1. 幼小連携の科学的思考力涵養プログラム

(1) 教育目標

－「育てたい力」－

- ①「わくわく ときどき」感動する心を育てる。
- ②人間の本来の知的喜びを、身体感覚を通して呼び覚ます。
- ③知恵のある生活（くらし）を受け継ぐ者として育てる。

- ・地域（日本）の衣食住の様々な共有体験を豊かにする。
 - ・自然と一体化して生きていく生活を豊かにする。
 - ・生活の中の様々な問題を解決していく中で科学的思考力を身に付けていく。
- ④人間を理解し関係を調整していこうとする力を育てる。

(2) プログラムの内容・方法

幼児期は事象に対する直感的感性的把握と試行錯誤の時代で、感性を構成する要素である、気付く・感じる・考える・関わる・行動するが順に意識化され、次第に高次化され、発展していく特性をもつ。事象に対する感受性（気付く、感じる）や思考性（思う、考える、創造する）が活動性（関わる、行動する）と関係しながら循環的に働き、かつ、その相互作用によってそれぞれの働きがより活発になっていく。幼小連携の科学的思考力涵養プログラムでは、以下のABCDのカテゴリーの活動を誘発し、幼児との相互作用の中でより豊かな学びを生み出していく環境、つまり、遊誘財を活用し保育展開をすることが有効である。このように展開された保育は、STEAMIC教育の要素を必然的に包括している。

	<p>A. 発見と問題解決</p> <p>①好奇心・試行錯誤</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美しいものや不思議なもの、未知のものなどに驚嘆したり、関心をもってかかわったりしようとする。 ○多様なものにかかわって、周囲の子どもたちや大人にたずねたり、自分で調べたり試したりしながら、試行錯誤する過程を楽しみ、そのものの特性に気付いたりする。 ○発見した喜びを味わったり、人に伝えたりして、意欲的に表現しようとする。 ○「なぜ、どうして」などと想像したり、自分のイメージで新しいものをつくり出そうとしたりする。 <p>②論理的に理由付けされた行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○季節や天候にあわせて服や道具を使いこなす。（帽子・手袋・上着・雨傘など） ○使った遊具や用具を片付けるとき、正しい場所に置く。 ○遊びに必要なものをそれぞれの置き場所から取る。 ○最初と最後の様子や過去と現在の状態から、つながりや因果関係を考えたり予測したりする。 ○自然に触れる中で、ものの仕組みや法則に気付く。
	<p>B. 言葉への関心</p> <p>①話すこと・聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人の話や絵本・図鑑、テレビや新聞などの情報から、自分の周りの出来事に関心をもつ。 ○うなずいたり相づちを打ったりしながら相手の話を聞き、「なるほど」と納得したりする。 ○主述をはっきりさせて自分の意見を言う。 ○出来事やものの特徴を、かかわっているものやことと結びつけながら、自分の言葉で説明する。 ○比喻や例を用いて話したり説明したりする。 ○しりとり遊びやなぞなぞ遊び、カルタ遊びを楽しむ。 ○好きな絵本がいくつかあり、その内容について意欲的に話そうとする。 ○絵本を読んだ後やその日のミーティングなど、話し合いに参加する。 ○トラブルが発生したとき、その理由を言葉で説明しようとする。 <p>②書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○書いてあることに注意を向けたり関心を示したりする。 ○自分の名前が分かり、平仮名で書ける。 ○書きたいと思い、文字や表示（ロゴ）などを見ながらまねて書く。 ○友達と一緒に、絵本や表現して遊べるものをつくったりすることを楽しむ。（手紙・看板・メニュー・標識・切符・券・名札・カードなど）
	<p>C. 数量と図形（平面・立体・空間）</p> <p>①数理的な見方や考え方や表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対象を比べる <ul style="list-style-type: none"> ・並べたり、重ねたり、入れ替えたりして、長さや大きさや強さや早さなどを比べたりしながら、ものの数（数量）を見つけ出す。

- 長い—短い（長さ）／大きい—小さい（体積）／多い—少ない（容積）／重い—軽い（重さ）／強い—弱い（強さ）／早い—遅い（時間）／速い—遅い（速さ）／冷たい—熱い（温度）など
- ・もの形（図・形・空間）の違っている所（共通・相違点）に気付く。
 - 長い—短い（長さ）／高い—低い（高さ）／深い—浅い（深さ）／広い—狭い（面積）／丸い—角い（角度）など
- まとまりのある3つの群について、多少の区別をする。
 - ($A > C > B$) / ($A = B = C$)
- 毎日の欠席調べやけが調べで、誰も該当する人がいないときに0人だという表現や、お皿のクッキーを食べてしまったときに、全部無くなった（0個）と言うような表現を用いる。（0の概念形成）
- 人・個・本・枚など数詞を遣って話す。
- ～と比べて、～の方が、一番～など、関係を比較して表現する言葉を遣う。
- 今日の日付や曜日、現在の時刻を言ったり、時間や月日の順序を考えて話したりする。

②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）

- 生活の必要に応じて、事物を指さして数えたり、1対1対応させながら数える。
 - （例；30人くらいの人数に合わせる。縄跳びやおやつ作りなど）
- 求めに応じて、「○○を○個」、「○○を○個」、「○○を○個」など、種類や数の違うものをとる。
- 前から○人目、右から○番目、下から○段目など順序や位置関係が分かる。
- 学級の友達と人数やものの個数を意識しながら、テーブルセッティングをする。（カレーライスやクッキーなど）
- お茶や牛乳などの液体を、同じサイズのコップでほぼ同じ量につぎ分けようとする。
- ひもや紙やホットケーキなどを、同じくらいの長さや大きさに切ったり分けたりしようとする。

③図形（平面・立体・空間）

- 体（目・鼻・耳・口・頬・眉・額・髪・腕・足・手など）やものなどの部位を意識して全体をつくったり描いたりしようとする。
- 興味をもったいろいろなものを模写しようとする。（例：動植物や図や国旗や絵本など）
- 異なった形を区別して使用したり片付けたりする。（例；木の実や木の葉など自然素材や、ブロックや積み木・ままごと道具など分類して片付けたり使用するなど）
- 上から何段目、左から何番目など置き場所がわかる。
- 形や凹凸などの形状がきちんと当てはまるように注目しながら、作品や片付けを完成させることを喜ぶ。（ジグソーパズルや自作の遊具など）
- 折り紙を折ったり展開したりして器や立体をつくる。
- 真ん中や中心が分かって、バランスよくものをつくったり動かしたりする。
- 上下・左右・前後・斜めの空間的位置が分かり、動いたり人に伝えたりする。
- 積み木や空き箱・木片などを組み合わせて、家や基地、遊具などをつくる。

④パターンと組み合わせ

- ものの形（大きさ・長さ）や色の形状や特徴に応じて並べる。
- パターン化された6つくらいまでの物の数が直感でわかる。（例：トランプやサイコロの目）
- 並んだ絵の繰り返しに気付き、次にくるものを予測して楽しむ。
- カレンダーに関心を持ち、生活の中で意識したり使ったりする。
- 日常の生活のリズムをつかんで、活動を見通したり、準備や始末をしたりする。
- いくつかの特徴で事物を分けたり仲間（集合）作りをしたりする。
- 自分自身でパターンをつくって楽しむ。（例 ビーズや木の実のアクセサリー・ものを描いたり物語を書いたり・動きの表現の中で）
- 拍やリズムに興味をもって、まねたり、呼応したり、替え歌をつくったりする。

D. 協同的感性

①協同的な言葉や表現

- 友達と一緒に歌ったり踊ったりして共鳴することを喜ぶ。
- 役割を分担したり、役に合わせた表現を工夫してごっこ遊びを楽しむ。
- 友達と活動の目的や目標などについて話し合う。
- 相手の意見と自分の意見の違いや共通点について気付き、話し合う。

②人間を理解し関係を調整する力(21項目)

- 異質なものとのお会い

	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の思うようにならないことを体験する。 ②必要なときに、人に助けを求める。 ③他者が「いや」という行為や事柄に関心をもつ。 ④自分がされて嫌なことには、そのことを態度や言葉で表現する。 ⑤嫌なことを受け流したり、距離をおいて付き合ったりする。 ⑥自分と異なる行動や意見に対して考えるゆとりをもつ。 ○異質なものへの興味や関心 <ul style="list-style-type: none"> ⑦他者の行為や言葉に関心をもつ。 ⑧他者の思い入れや思い入れのあるものに気付く。 ⑨他者の言い分に真剣に耳を傾けて聴く。 ⑩感情を込めた言葉や論理的な言葉で伝えたり説明したりする。 ⑪他者の行為の意味について想像力を働かせる。 ○他者との交流 <ul style="list-style-type: none"> ⑫友達遊びや活動に入ったり、友達を誘ったり、受け入れたりする。 ⑬活動や遊びの中で、やりたいことをしたり、なりたい自分を表現したりする。 ⑭イメージを共有したり、役割を分担したりしようとする。 ⑮自分の気持ちや行動、他者からの評価などの変化に気付いたり関心をもったりする。 ⑯自分や他者の良さに気付いたりそれを生かしたりする。 ⑰自分と違うところをもつ人に憧れる。 ○関係性をつくる <ul style="list-style-type: none"> ⑱友達や他者に共感したり応援したり励ましたりする。 ⑲仲間のトラブルに介入したり、関係を調整したりする。 ⑳緊張した場面をユーモアで和ませたり解決したりする。 ㉑問題に対して創造的に解決しようとする。
--	--

【分析結果と根拠理由】

幼児期から児童期を一つの枠組みとした接続期を設定して、「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量） ③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」の項目が設けられている。このことによって遊びが、何を育てているのかが具体的になり、遊びが学びであることに納得ができる。この学びのプロセスに気付く、幼児の遊びや活動から教育的価値を見いだす力量がついていくと考える。

令和6年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果の高い評価や記述にある「自主的に」、「いきいきと」、「自分のやりたいことをとことん」という見取りには、学ぶ喜びやさらに学びを深めようとする幼児期の特性等を活かした教育方法への理解が垣間見える。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

本園の伝統や特性を活かした教育課程・指導計画である「生活プラン」による保育を進めているが、本園の保育理念である「子どもと創る保育」を読み直したことは教師観を揺さぶるよい機会になった。保育者自身が教育課程をどう読み解き保育を展開していくかは、保育者の生活感・生活力やキャリアによって違いがある。その違いも保育の豊かさにつながるものはいかし、改善が必要な場合は、指導計画や実践をとおして教育課程に即したものとなるように努力している。子どもをいかに信じて日々の生活を進めていくか、信じた結果、豊かに育つ子どもたちを目の当たりにして保育の面白さを実感したり「子どもと創る保育」の具現の難しさを感じたりしながら日々の保育が進んでいる。

この営みが保育の現場にあるかということ自体が、教育課程・指導計画が有効にそし

て豊かに展開されている証拠となるだろう。

科学的思考力涵養を図るという観点は、幼児期から児童期に向けての発達や学びの連続性が捉えられている。特に、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性が考慮されていることが、評価要素のカテゴリー設定に現れている。「発見と問題解決(①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動)」、「言葉への関心(①話すこと・聞くこと ②書くこと)」、「数量と図形(平面・立体・空間)(①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること(分離量や連続量) ③図形(平面・立体・空間) ④パターンと組み合わせ)」、「協同的感性(①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力(21項目))」は、STEAMIC教育も包括しており、幼稚園教育要領にある「遊びを通しての総合的な指導」でもある。子どもの遊びや姿からその中にある教育的価値を見だし言語化・可視化することは、幼稚園教育を進めていく上で必要とされている。小学校との連携・接続の柱として共通理解のためにも活用している。

【改善を要する点】

評価項目や内容についての妥当性を確認することができたが、幼小連携の科学的思考力涵養プログラムにおいて、引き続き小学校との合同保育／授業等を実施し、今年度は附属小学校福井教諭に登壇いただいた。学習指導要領も改定され、互いの教育のつながりがさらに密になってきているがその理解は非常に難しい。まずは、合同保育授業を実施するだけで終わることのないよう「ねらい」や「めあて」を児童幼児の姿に合わせた計画のもと、柔軟に合同保育／授業を進めていくようにしなければならない。そのためにも幼稚園側が幼小接続に対する理解をし、小学校側に説得力をもって伝えられる実践と力量が必要になる。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

自己評価の基準

- A 十分達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが、成果が十分でない
 - D 取組が不十分である
- ※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目2 保健安全管理

(1) 観点ごとの分析

観点2-1 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

【観点到に係る状況】

月別指導計画の見直しの実施については、今年度も月別の指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、時期に合わせた疾病の予防、自分たちの体のことなどについて計画を立て、それに沿って保健管理や保健指導を実施した。食育については、おやつへのやを昨年度3年ぶりに運営を再開し、現在に至っている。無添加で自然の味が五感を通して楽しめるようなものをおやつ時間に提供するように努め、保護者ボランティアが入り、園で育てた野菜やサツマイモ等を使った手作りのおやつもふるまわれ

た。食物アレルギーの対応が必要な幼児に向けては、基本的に園児全体の体にも良く、対応の必要な幼児もできるだけ同じものをみんなで美味しく食べられるように工夫した。また、アレルギー対応食に関しては、食物アレルギーのある幼児が、必ず養護教諭に伝えてからおやつのへやに行き行って食べるようにしている。併せてアレルギーのある人への正しい知識と理解を同じ学級の幼児に担任が指導している。また、食物アレルギーのある幼児については、4月当初に保護者と個別面談をし、アレルギー管理表を提出してもらうとともに職員に説明し共通理解を図り、職員研修を実施することにより職員の知識・技術の向上に努めた。

保護者へは、健康診断後、「ほけんだより」に身体測定の様子を掲載した。個人毎には、健康診断結果一覧表を配付し、治療勧告のある幼児には再度医療機関への受診をお願いした。保健指導に関する協力についても、各組毎に講話をし、むし歯予防に対する知識を高めている。また幼児に対しては、各組のえほんのへやの時間を利用し、発達段階に応じて年少・年中児には、むし歯ができる原因と歯みがき指導を、年長児には6歳臼歯を中心とした歯みがき指導を行っている。食育に関する指導も、年少児の弁当開始時期に合わせて、絵本を用いて全学級に行っている。毎月幼児と保護者に向けて「ほけんだより」を配布し、幼児に健康の概念が育つような内容とした。保護者には、園内で流行している疾病の予防法や健康診断後の考察、保健室の利用状況などの情報を適宜提供し、園と家庭が協力して幼児を育ていけるように協力をお願いした。また、保護者からの健康相談に個別に応じ、園と家庭の共通理解を深めている。

園の環境衛生については、学校薬剤師による指導や定期的な検査により、細菌・水質等園内の環境安全管理に努めている。また、砂場や遊具など園児が直接接触するものについては、消毒をするなどの配慮をしている。感染症対策として、年間を通して、徳島県感染症情報センターからの最新の情報や周囲の学校の状況を把握し、職員に周知して予防に努めている。手洗い方法も園舎内へウイルスが入らないように園舎外で必ず石けんによる手洗いと手指消毒を行うように徹底している。

【分析結果と根拠理由】

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室の指導計画を立て、健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。また、緊急を要する対応が必要な場合には、状況に応じて計画を改定していくことが大切であると考えます。

【資料】 保健室2月の指導計画

【幼児の姿】

- ・気温の急な変化により、熱が出たり咳をしたりしている幼児もみられる。
- ・手袋やマフラー、コートなどを身に付けて、暖かくしている。
- ・うがいや手洗いなどが、水が冷たいので十分でない幼児がいる。
- ・園の生活に慣れ、自己中心だった幼児たちが、友達と一緒に行動することが常になってきた。友達の話をよく聞き相手の気持ちを汲める幼児もいる。

【ねらい】

- ・感染症の予防（手洗い・手指消毒）をしようとする。
- ・寒さに負けず戸外でしっかり運動をしようとする。
- ・規則正しい生活をしようとする。

指導内容	指導の要点と環境構成の留意点
<p>○感染症の予防（手洗い・手指消毒）をしようとする。</p> <p>○規則正しい生活をする。</p> <p>○寒さに負けず戸外で元気に遊ぶ。</p> <p>○体調や温度・気候に合わせて、衣服の着脱ができたり防寒着の調節ができたりする。</p> <p>○心の問題や悩みを上手に解決しようとする。</p> <p>（保護者への対応） *保護者との健康相談の場を設ける。</p>	<p>○感染症の予防には、丁寧に石けんで手を洗うことや、手指消毒が大切であることを知らせ、水が冷たくても進んで実行できるように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの後、おやつの前、外から帰った後、お弁当の前は、必ず手洗い・手指消毒をするよう声をかける。 <p>○早寝・早起きや、バランスの良い食事などが実行できるよう保護者にも伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事にあわせて病気の予防を呼びかけ、たとえば豆まきでは「病気もそと」と、病気に負けない気持ちを育てる。 <p>○一輪車やサッカー・ドッジボール・竹馬・縄跳び・ホッピングなどで身体を思い切り動かし、戸外で元気に遊ぶように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒くなると身体がかたくなり、けがをしやすいため、十分に準備運動をするなどし、けがの予防をする。 <p>○衣服の着脱や防寒着による調節の大切さを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊んだ後で汗をかいた衣服の着替えができるように促す。 ・天候や気候に合わせて、手袋や防寒着の着脱ができるように促す。 <p>○友達とけんかしたり、遊びがうまくいかなかったりして来室した幼児に対して、幼児の話をよく聞き、その子の思いをしっかり受け止めながら、自分のやりたいことに向かっていけるように援助する。なんとなく来室した幼児に対しては、無理にその原因を追究しようとせず、居心地の良い場所となるように、温かく見守り、幼児の状態を見ながら対応し、気分を立て直して遊びに戻るように支援をする。</p> <p>*子どもたちの身体や心の健康について、また、子育て全般について、健康相談の場を設けるとともに、必要に応じて専門機関への連絡を取るなど、保護者のニーズにあった支援を行う。</p>

別添資料 1-② 令和6年度幼稚園評価アンケート結果報告書

別添資料 2-① ほけんだより 2月号

観点2-2 危機管理対策の見直しと強化

【観点到係る状況】

「令和6年度安全管理計画－危機管理マニュアル－」（別添資料2-②）を昨年度の反省にたち見直した上で作成し、それに基づき計画的に安全管理を実施している。また、毎月

20日の学校安全の日には、教職員が複数体制で園内の安全点検を実施し、危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなどの即時に対応をしている。また、6月には教職員が全員で赤十字幼児安全法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得て実技講習を行った。

【資料】 防災・避難訓練の実施

①幼小合同防災訓練（地震・津波想定避難訓練）計画

- ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって全員が避難できるように安全な避難の仕方を身に付ける。
- 期 日 ・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
令和6年5月7日（火） 10:50～11:30

②避難訓練（不審者対応）計画

- ねらい ・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるように、安全な避難の仕方を身に付ける。
- 期 日 令和6年5月24日（金） 10:50～11:05
- 状況設定 ・幼稚園の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定。
・不審者が小学校の芋畑方向から侵入。石庭「大地の子」に入ってきたと想定。

③防災訓練（地震・火災）計画

- ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるように安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- 期 日 令和6年9月2日（月） 9:40～10:00

④避難訓練（洪水・高潮）計画

- ねらい ・実際に洪水や高潮が起こった時、保育者の指示にしたがって全員が避難できるように安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・洪水や高潮の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- 期 日 令和6年10月2日（水） 9:40～10:00

⑤避難訓練（地震）計画

- ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるように安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・地震の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- 期 日 令和7年1月17日（金） 9:40～10:00

【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルについて、年度当初に職員会で周知して、避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めた。また、今年度実施後、問題点や課題を考察し、次年度からの危機管理マニュアルに反映できるようにする。

別添資料 2-② 令和6年度安全管理計画－危機管理マニュアルー

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

指導計画に基づいて保健指導を実施し、幼児の実態を観察することで月の指導計画を見直し、全職員で園の保健指導体制やその内容について協議するなど、適宜よりよく改定している。幼児の健康や安全に関する情報を毎月提供する「ほけんだより」も幼児が保護者と一緒に読め、健康教育につながるように、ひらがなとカットで構成し、健康について考えてもらえるように工夫した。ほけんだよりの内容に合わせた掲示物を保健室で掲示し、けがや病気での来室時に個別に話ができるようにした。健康の概念をまだもっていない幼児に対して、元気で登園するための正しい生活習慣がしっかりと身に付くように考えた。

危機管理対策の見直しと強化については、危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせたりしている。今年度初めて、洪水・高潮を想定した訓練を行った。避難する際に、地震や火災のように幼児を急がせる必要がないことや、一次避難場所から二次避難場所に逃げる時の出入り口の整理が必要であることに気付いた。防災訓練を行う際には、訓練があることを事前に子どもたちに知らせずに各訓練を実施している。幼児は、どの子も遊んでいた場所の近くの保育者の側に集合し、保育者の指示に従い、速やかに避難することができた。避難訓練を重ねることにより、幼児は自分たちが遊んでいたところに大人がいなかったため、自分たちで考えて、隣の保育室にいる教員の元に逃げるようになっていた。また、避難訓練時には、当日園内で活動している保護者ボランティアも訓練に参加するなど、保護者の意識も高めるようにしている。また、防災用ヘルメット（大人用）を各場所に設置しているが、令和5年度の修了記念品として、子ども用の防災用ヘルメットを頂いた。

今年度も、日本赤十字社徳島支部より講師を招き、幼稚園で実施した。救急処置において幼児に対応した実技講習による技術習得のみならず、食物アレルギーについての最新の知識とアナフィラキシーショックが起きたときの対応も知ることができた。実施することで、安全対応の能力の向上に役立っている。

不審者侵入対策として、昨年度から非常通報装置を園内4箇所に設置し、すぐに警察に通報できるシステムを導入している。

また、交通安全の面では、毎年市が主催する交通安全教室を実施し、幼児に道路を通行する上でのルールを守ることの大切さを伝えている。

【改善を要する点】

何度も同じ訓練を行うことにより、幼児が安全に動けるように考えていきたいと考える。また、災害時には、保護者との連絡手段やお迎えの道が絶たれてしまうことも考えられる。様々なシミュレーションを考え、柔軟に対応できるような訓練をしたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目3 組織運営

(1) 観点ごとの分析

観点3-1 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

【観点到に係る状況】

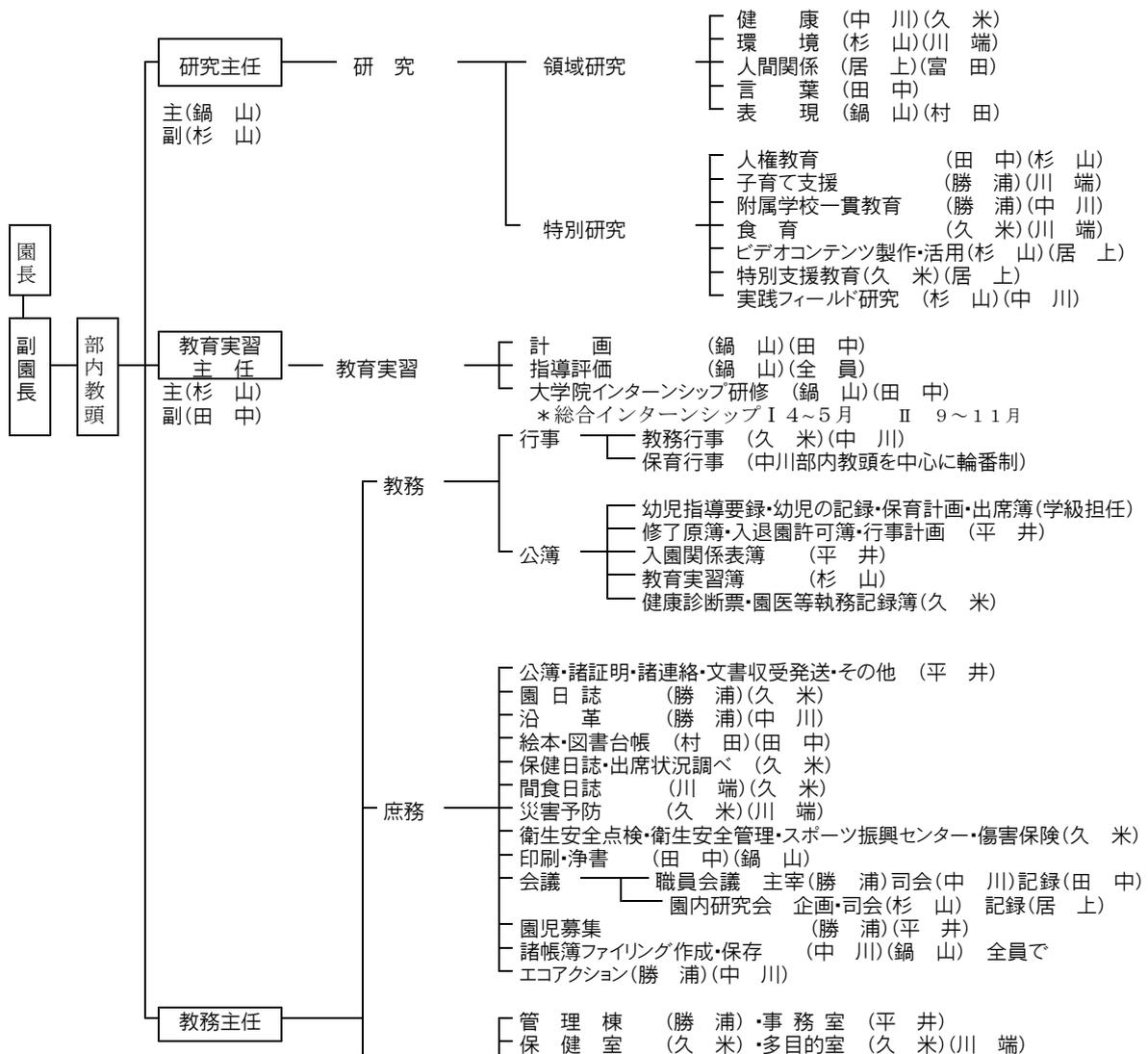
本園は、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織している。3主任を責任者として配置して、それを園長・部内教頭が統括するという園務分掌を定めている。これは、専任教頭が廃止された平成26年度より行っており、学級も担任する部内教頭の負担軽減とともに、各主任のリーダーシップが発揮されやすいような改善策となっており、少数精鋭でありながら職員が互いに協力して園務の能率化・省力化が図られている。また、各種行事における責任者についても分担制（主任・副主任）とし、全教職員が主体的に園経営に参画できるよう構成の工夫に努めた。さらに、令和5年度に新型コロナウイルスが感染症法上5類に移行されたことをきっかけとして検討を重ねてきた行事のもち方についても、話し合いの機会の充実を図り、意見を交わし合うことで再検討を加えながら進めていった。園運営に関する事項については、毎月の定例職員会議で、担当責任者が議題や報告をあげ、全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応し、必ず次年度に向けた反省を欠かさないようにしてきた。その他においても必要に応じ、協議する機会をとってきた。

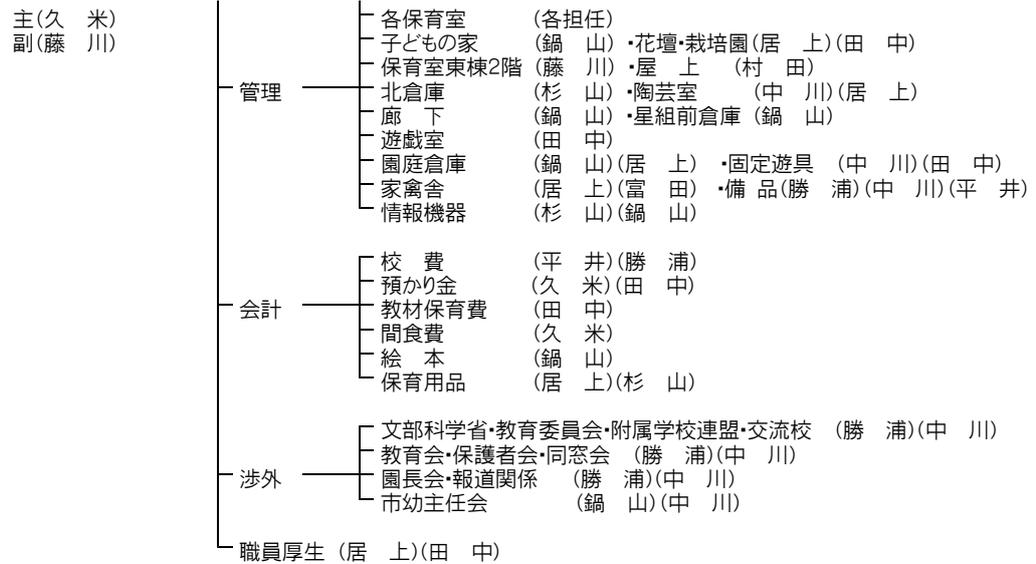
【資料】 令和6年度第1回職員会議題

令和6年度 第1回 職員 会議		鳴門教育大学附属幼稚園	
と き	令和6年4月1日（月） 9:30～		
と ころ	附属幼稚園 遊戯室		
議 事	園長あいさつ 転入者あいさつ		
1 協議事項			(担当者)
(1) 令和6年度人事異動について	資料1	(園 長)	
(2) 令和6年度 教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料1	(園 長)	(園 長)
(3) 令和6年度 職員の勤務について	資料1	(園 長)	
(4) 令和6年度 園経営方針について	資料2	(園 長)	
(5) 令和6年度 園務分掌について	資料3	(中 川)	
(6) 令和6年度 年間行事予定・4月行事予定・春休みの勤務について	資料4	(久 米)	
(7) 新学期諸準備について	資料5	(中 川)	
(8) 新入園児用品渡しについて	資料6	(居 上)	
(9) 着任式・前期始業式について	資料7	(久 米)	
(10) 入園式について	資料8	(久 米)	
(12) 附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について	資料9	(中 川)	
(13) 園児緊急連絡網について		(中 川)	
(14) 芙蓉会規約について	資料10	(平 井)	
(15) 令和6年度 幼稚園要覧について	資料11	(中 川)	

(16) 四附連 (愛媛) について	資料12 (園 長) (中 川)
2 連絡事項	
(1) 文書整理・情報管理等について	(園 長)
(2) 経費節減について	(園 長)
(3) 四附連 (愛媛) 参加等について	(杉 山)
3 その他	
(1) 労働環境協議会役員改選について	(園 長)
(2) ハラスメント相談委員改選について	(園 長)
(3) 衛生推進者 (本学安全衛生管理規定第7条) の改善について	(園 長)

【資料】 令和6年度 園務分掌





* 動物の家 富田・5歳組担任を中心に

* 誕生リボンと表示 富田

【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営を行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担しているため、個々への負担は大きいですが、各々が責任をもって園運営にあたることにつながっている。

観点3-2 教員のキャリアステージに応じた資質・能力の向上

【観点に係る状況】

平成29年度に徳島県教育委員会が策定した「幼稚園教諭等 教員育成指標モデル」を参考にしながら、保育者のキャリアステージに応じた資質・能力の向上に取り組んでいる。園長をリーダーに、互いに連携しながら先輩の先生の動きや配慮などについて保育の中で学び、自分の保育の在り方について振り返りながらステップアップにつなげていっている。

また、組織運営についてはキャリアステージに応じた資質・能力の向上も必要である。報告・連絡・相談の徹底とともに、全体を把握しながら計画を立てるべきことがスムーズかつ確に実施できるような指示が必要であるが、責任の所在が分からず指示が出ないことにより、時間を要したり責任者以外の職員の負担となることもあり、職員集団全体の疲弊へとつながる状況が生じている。勤務時間の短縮が重要視されがちな働き方改革ではあるが、それぞれのキャリアステージに必要な資質・能力を身に付ける機会を保障をしていくことが必要になると考える。

【分析結果と根拠理由】

その日の保育や気になる子どもについて、学級や学年に関わらず職員間で話をし保育に活かしている。互いに話をすることで考え方が広がったり、根拠のポイントが分かたりすることで保育者自身の思考力向上にもつながっていている。一方で、園務分掌の仕事やすべきことについて予測し行動したり、物事を深く捉えて責任をもって行動したりする点では、さらに改善しそれぞれのキャリアのステップアップにつなげていきたい。自分自身のキャリアステージと必要な資質能力を確認し、それぞれのキャリアに応じた資質能力が身に付くように自覚をもつことも必要であり、キャリアにおける資質能力を発揮し、発揮した力が活かされ組織が機能にしていこう努める必要がある。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

園務分掌を詳細に示し、責任の所在や業務内容を明確にすることで、少ない職員数で運営できるように工夫してきた。責任担当者を複数体制で組織し、共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるようにしてきた。

年度当初に示した全体計画に沿って、担当者が計画立案した資料を職員会議にて協議・決定をする。また、実施にあたっては全員で打ち合わせを行い、確実に実施できるよう共通理解や全体把握に努めてきた。実施後は全員で反省し、次年度に向けての改善策を話し合い、記録に残していくようにしてきた。また、教職員が少人数であるため、全員で取りかかるべき事案と、そうではない事案とを明確にし、運営の効率化を図ってきた。また、令和4年度より導入している、幼稚園と保護者をつなぐデジタル連絡ツール（スクリレ）を通して、保護者へ伝達事項等を配信することにより、保護者への連絡がスムーズに行えるとともにICTの有効活用が進むことで業務の軽減につながっている。

幼稚園等教諭教員育成指標モデルを活用しながら、それぞれのキャリアステージに応じた自身の行動を振り返ったり、より仕事に自覚をもったりしながら、よりよい保育実践や円滑な組織の運営につなげられるようにしていきたい。

【改善を要する点】

職員が行っていた施設や遊具の修繕・塗装などについては、これまで同様に外部業者に委託しており、このことは「働き方改革」の実践につながっている。仕事の共同作業化と工具等の購入等の改善を随時行うなど、職員の負担軽減のための方略を工夫しているが、今後とも業務や組織構成の見直しを継続して行う必要があると考える。

前述したが、職員間で協力体制をより強固にし、一人一人がより自覚と責任をもって保育や業務を遂行していけるようにしていきたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目4 研究と研修

(1) 観点ごとの分析

観点4-1 幼児教育研究と園内外における研修の実施

【観点到に係る状況】

①園内研究会・合同研究会・研究保育の公開

本園では、昨年度「遊誘財から保育者の専門性を問う～子どもと創る保育のために～」のテーマで研究を進めてきた。事例の中に「保育者の思考と遊誘財が遊びを誘発するプロセス」のフォーマットを作り、本園の保育の考え方である「子どもと創る保育」を改めて振り返りながら記述することで、保育者の思考に視点を置き、これまで見えにくかった保育者の保育を見る視点・読みとりや意図について抽出することができた。また、生活の中に保育者自身がいるこ

とを自覚しながら、そして子どもを信じ、生活を積み重ねていくプロセスを、その時の言葉で記していくこともできた。

合同研究会やそこで検討する事例でも、保育者が日々の保育の中で悩んだり困ったりすることをそのまま語ることが土台となった。保育者から出てくる言葉も、子どもに近いものになっていった。そして、それぞれの保育者の現在地から見える専門性について、考えることができた。

今年度は、保育者の専門性をいかにして向上していくのか、を明らかにしてするために、研究テーマを「遊誘財研究を活かした保育者の専門性向上への取り組み—子どもの主体的・創造的な生活を支える保育者の在り方—」と設定した。

今年度も本学幼児教育コースと協力して研究を進め、園内研究会・合同研究会を行った。オンライン会議システム（Zoom）を併用した。また、園内研究会のうち5回は、公開保育を兼ねた研究保育を行った。人数や県内などの制限のない参加募集を実施し、県内外を問わず多くの参加者を迎えることができた。活発な保育協議を経て、日々の保育の見直しにもつながった。

また、今年度も担任教諭の研究保育を公開した。計5回実施し、合計で県内外から幼児教育関係者170名の参加を得ることができた。

②幼児教育研究会

平成29年度以降、働き方改革推進のため、附属幼稚園と鳴門教育大学との隔年の開催となっていた。令和2年度～4年度はコロナ禍のため、オンライン開催となった。そして昨年度から、隔年の開催を再開した。したがって今年度は、対面開催の会場が高島キャンパスとなった。全体会（挨拶、研究発表）、分科会を実施した。リモートと現地参加のハイブリッド型という形をとった。リモートで参加可能な分科会を固定し運営のスリム化を図ったことで、費用的にも仕事量的にもコンパクトに実施することができた。

現地参加として111名、リモート参加では211名の、合計322名の参加者を迎えた。

申込み受付や配信などはこれまで同様、専門業者に依頼したことで作業の効率化を図った。研究紀要の購入受付や参加者からのアンケートなどもデジタル化を進めており、作業効率は年々上がっている。今後もさらに改革を進めていきたいと考えている。

保育公開・全体会・分科会の内容については以下のとおりである。

- 1) 全体会（開会 及び 研究発表）（12:30～13:15）【オンライン参加可能】
- | | | | |
|----|-------------|----|-------|
| 挨拶 | 鳴門教育大学 | 理事 | 美馬 持仁 |
| | 鳴門教育大学附属幼稚園 | 園長 | 勝浦 千晶 |

研究発表 『 遊誘財研究をいかした保育者の専門性向上への取り組み
～子どもの主体的・創造的な生活を支える保育者の在り方～ 』
鳴門教育大学附属幼稚園 研究主任 杉山 健人

- 2) 全体会（講演）（13:15～14:15）【オンライン参加可能】
- 『AI時代の保育者の専門性 —AI・VR・メタバースの可能性—』
幼児教育コース 教授 湯地 宏樹

- 3) 分科会（研究協議）（14:30～16:30）【オンライン参加可能】

① 3歳児(年少)部会

司会・コーディネーター	幼児教育コース	教授	湯地 宏樹
	幼児教育コース	教授	塩路 晶子
	幼児教育コース	准教授	木村 直子
提 案			鍋山 由美(3歳児担任)

富田 朱音(動物の家担当)
村田 麻衣(屋上・絵本の部屋担当)

② 4歳児(年中)部会

司会・コーディネーター

提 案

幼児教育コース 教授 田村 隆宏
幼児教育コース 准教授 垂髪 あかり
杉山 健人(4歳児担任)
田中みゆき(4歳児担任)
川端 温子(おやつのへや担当)

③ 5歳児(年長・幼小接続)部会

司会・コーディネーター

提 案

教員養成特別コース 名誉教授 木下 光二
幼児教育コース 教授 佐々木 晃
中川 欣子(5歳児担任)
居上真梨子(5歳児担任)
久米 真里(養護教諭)
福井 愛実(附属小学校2年生担任)

4) 閉会(16:30~16:40) 於:各会場

参観者からのアンケートでは運営、内容ともに高く評価されている。今後も、本園の保育研究を全国へ向けて発信していきたいと考えている。来年度以降は、公開保育を行わない年の会場を幼稚園とし、園環境のみを公開するなど、研究内容の発信方法についてもさらに工夫していきたい。

以上のことから、幼児教育関係者への研修支援が適切にできていると考える。

別添資料1-③ 生活プラン(2014.8.1発行)

別添資料4-① 令和6年度参観者 アンケートグラフ・まとめ

別添資料4-② 令和6年度幼児教育研究会 アンケートグラフ・まとめ

③園外の研修会等への参加

- ・文科省等主催の研修(WEB) 幼稚園担当指導主事・担当者会議(WEB)
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園こども園長会、全国国立大学附属学校連盟副校園長会研究会、全国国立大学附属学校PTA連合会PTA研修会、国・県幼稚園教育課程研究協議会、全国附属学校連盟幼稚園部会新潟大会、全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会、養護教諭研修会、学校保健安全研究協議会 等
- ・市幼稚園教育研究協議会、全幼研徳島支部、教育会主催の研修会 等

以上のとおり、数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し、そこで研究発表や話題提供なども行っている。

観点4-2 教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況

【観点に係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。今年度の具体的な研修支援、教員派遣、公開保育の提供としては、次のとおりである。

- ・令和6年度徳島県保育・幼児教育アドバイザー、令和6年度徳島県幼稚園等新規採用教諭研修運営協議会委員、公益社団法人全国幼児教育研究協会徳島支部支部長、青少年赤十字徳島県指導者協議会副会長を園長が務めた。

- ・ 県・市教委主催の研修会への講師派遣（幼稚園等マネジメント研修、主任教諭研修会）
- ・ 県幼稚園等新規採用教員研修・幼稚園長等運営管理協議会における指導
- ・ 県内外研修会への講演講師の派遣
- ・ 「幼児教育の推進体制構築事業」協力
- ・ 文部科学省委託事業全附連受託研究への協力
- ・ 国立教育政策研究所 令和6年度 教育課程実践検証協力校事業に係る協力校
- ・ 国立教育政策研究所プロジェクト研究「質的評価スケール案」を活用した幼児教育アドバイザー等研修への協力・参加
- ・ 鳴門教育大学（令和6年度「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業協議会委員、令和6年度大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究）検討委員会）
- ・ 幼稚園参観・研修（学校法人泉涌寺学園泉山幼稚園、新宿区立四谷こども園他、加古川市幼児教育関係者、鳴門教育大学木下光二特命教授ゼミ生、全幼研徳島支部会員、上越教育大学附属幼稚園、京都教育大学古賀松香教授ゼミ生、埼玉大学教育学部附属幼稚園、2024年度国別研修エルサルバドル「初中等算数・数学における学力評価に基づいた学びの改善」に係る研修員

別添資料4-③ 委嘱・委員等一覧（勝浦）

別添資料4-④ 参加研修一覧（中川、久米、鍋山、杉山、居上、田中、村田、川端、富田）

別添資料4-① 令和6年度参観者 アンケートグラフ・まとめ

観点4-3 地域住民への貢献

【観点に係る状況】

本園は奉仕幼稚園としての使命をもち、専門性を発揮し、次のような地域貢献を果たしている。

- ・ オープンスクールの実施。アンケート回答者51人（11月3日）。
- ・ とくしままちなか花ロードProjectに参加し、徳島の中心市街地の緑地化を進めるべく、年3回「西ノ丸橋★子ども美術館」展示に参加。
- ・ 教育講演会の開催。今年度は、本学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻（教職系）幼児教育コース教授の佐々木 晃先生を講師に「子育てほど素敵な仕事はない」と題した講演会を令和6年9月19日（木）に実施した。本園保護者に提供するとともに、幼児教育に関心のある一般の方にも公開した。

別添資料 1-① 令和6年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

【分析結果と根拠理由】

様々な地域のイベントにも機会を捉えて参加するなど、地域との関わりを意識的にもつよう心掛け、附属幼稚園が地域に果たす役割について職員や園児とも共通認識をもつようになっている。また、地域住民の子育て支援についてもオープンスクールや様々な講演会を実施して、積極的に進めている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

今年度も合同研究会や公開研究保育などにおいて人数制限をしない開催を実施することができた。そこで本園の研究成果や保育について、園外の教育関係者に提供する機会を設けることができた。研究内容については、これまでの遊誘財研究の成果に加えて幼児教育の今日的課題を見据え、幼児が主体となる保育の在り方について実践事例を元に本学大学教員との合同研究会を行い、さらに公開保育も行った。また、今年度は、合同研究会に附属小学校の福井教諭が参加し、本園のフォーマットに沿って、事例を執筆してくれた。本園がこれまで積み上げてきた「子どもと創る」教育課程の具体について事例研究や保育協議を通して提案することができ、参加者から高い評価を得た。また、オンライン会議システム（Zoom）を併用した合同研究会の協議では本学院生からも積極的な参加があり、保育者養成の点からも有益であることが確認できた。

今年度の幼児教育研究会開催においては、附属幼稚園と鳴門教育大学との隔年開催を再開し、昨年度までの反省を踏まえリモートでの参加者について参加可能分科会を指定するなど工夫することでコンパクトな開催を実現することができた。また、本学幼児教育コースの教員から直接専門的な助言や指導を得られることは附属園の利点であり、教員の指導力・資質向上につながっている。幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき、広い視野で保育者の専門性について考えることができることが優れた点である。

地域住民に対しては、園児や保護者が近隣の環境保護に関心をもつきっかけとなるよう積極的に地域団体の実施する活動にも参加するようにしている。また幼稚園教育についての専門的見識や実践事例、先端的な情報を広める地域の子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割も意欲的に果たしている。

【改善を要する点】

幼児教育研究会においては、本園に求められているニーズに応えつつ、内容を充実させながら費用など運営面も考えたコンパクトな運営が実施された。今後は、研究幼稚園としての使命を果たした上での働き方改革を引き続き考えていきたい。コロナ禍以前に取り組みが始まった、大学と園の隔年での交代開催も再開した。またハイブリッド開催での研究発表は大変好評であったので、来年度以降も形式は引き継ぎつつ、さらに充実した運営に向けて工夫を重ねていきたい。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は、他所属の教員との交流や意見交換ができ、自らの実践を見直したり、新たな刺激を受けたりでき、教員の教育研究の意欲向上に役立った。昨年度から対面形式も多く復活したが、リモート形式の利点もある。研修の機会の充実に向けて幅広く情報を集めるとともに、職員への情報提供も続けていくようにする。

（3）評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目5 教育環境整備

（1）観点ごとの分析

観点5-1 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

【観点に係る状況】

施設・設備の充実整備の状況

鳴門教育大学附属学校園授業支援・カメラシステムが導入された。園内に子どもの活動を録画できるカメラを設置し、保育や研究、大学の講義での活用を進めていく。ここ数年、幼稚園の改築予算を大学に要望し大学も文部科学省に予算要求を行っている。来年度予算にも幼稚園改築をあげており設置者が省庁に予算獲得に向けて交渉中である。

また、現在の園舎は、昭和44年に建築されたもので、老朽化が進んでおり大学からの附属学校への限られた予算の中で修繕を行っているが、保護者からの寄附である教育寄附金に頼っている部分が多く、警報スイッチ4カ所の設置など施設・設備、夢ランド（総合遊具）の修繕については、寄附金の活用で充実が図られている。安全な教育環境の整備や維持のためには欠かせないが、それを保持するためには寄附金等が欠かせない状況となっている。

【分析結果と根拠理由】

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備を常に意識し、幼児が生活しやすいよりよい教育環境づくりに徹している。また、点検のシステムを確立させることで、職員の安全に対する意識を高め、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を確実に見つけ出し、寄附金の活用も含め附属学校係や大学施設課による迅速な対応がなされた。本園の環境整備についてのアンケートの中でも、どちらでもないと回答された保護者の内容に「子どもたちの遊ぶ環境としては良いが、耐震等について気になる」とある。能登半島地震がおき、南海トラフ地震が30年のうちで80%という高い確率で起きると想定されている状況において、園舎の改築は早急に予算取りの上、着工する必要がある。大学の交渉に大きな期待を寄せつつ、園では、オープンスクール参加者による集計結果においては、92.0%が「よく整っている」というアンケート結果を保持していく。そのために、幼児にとってふさわしい教育環境の構成や環境整備を怠らないようにし、引き続き幼児の安全を最優先に点検や整備を続けていく。

別添資料 1-① 令和6年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

観点5-2 みどり会（保護者会）との連携

【観点に係る状況】

教育環境の整備・充実には、本園のみどり会（保護者会）との連携が不可欠である。これまでコロナ禍で活動が滞っていたが、今年度は、ボランティア活動により環境整備のみならず、教育環境の充実にも大きく関わっている。

環境整備においては、令和6年10月12日（土）「かくれんぼ」を保護者会と連携し、実施した。園舎周辺の草抜き、暗渠の砂取り、保育室等の窓掃除、木々の剪定など環境の整備を行った。また、毎週水曜日の星組降園前には、園庭の草抜きを中心に保護者のボランティアで環境の整備を行っている。

教育環境の充実においては、保護者も園に入って活動することで子どもと関わる楽しさや意味、自分のもっている力を活かせる喜びを感じることを子育て支援としている。今年度は、おやつへの配膳や手づくりおやつ、絵本の読み聞かせや絵本の修繕、人形劇講演、手づくりボランティアでのカーテンのタッセル修繕、研修への参加、駐車場のスムーズな運営、おんがくと友達、おやじの会など、教育環境の質に与える影響は非常に大きい。

さらに130周年行事や記念絵本出版企画など、みどり会をはじめ保護者の活動は非常に多岐にわたっている。今年度は、130周年の絵本が出版され、修了生にも配布を行った。また、令和6年11月3日（日）のオープンスクールの日にお披露目会も実施し、修了生も含め約250名が参加した。園の教育にとって有効なもの、状況となるよう連携を図りながら進めていく。

【分析結果と根拠理由】

環境整備後、自分たちが生活する園の環境を、職員や子どもたち自身が改めて見直す意識が高まり、より良い環境を作っていくことができている。また、保護者の方たちの積極的に環境整備に関わり整えてくださった場所で、心地よく存分に遊んでいる幼児の姿が見られた。物を大事に扱っている姿もあり、園を大事にしていこうとする意識にもつながっている。

教育環境の充実に係るボランティアについては、保育の中に入ることや子どもたちにとってモデルになるような内容となっている。参加した保護者の声にもそれらが表れている（別添資料1 - ②令和6年度幼稚園評価アンケート結果報告書）。

今後も、保護者会と連携をしながら、より良い園環境作りを手がけていきたい。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

安全点検は複数体制をとるなどして、よく機能している。施設・設備の不備については、すぐに設置者との連携をとるようにし、教育環境を常に美しく整備している。

園の改築に関しても省庁にあげる順位としては重要性が高いと大学は認識しており、そのための資料作りや調査のために尽力をいただいている。

みどり会との連携は、今後も充実に向けていく。園の教育を理解していく過程もその中には大きな影響を与えるがよい方向に進んでいる。別添資料1 - ②令和6年度幼稚園評価アンケート結果報告書においても、みどり会の活動には高評価が得られている。

【改善を要する点】

現在の園舎は、昭和44年に建築されたもので、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、配管などの老朽化が目立つ。園舎全面改修を切望しているが、現在混然としている幼児教育行政の動向を見定めた幼児教育施設の建設のため、しばらくは部分補修でしのいでいく必要がある。また、緊急を要する箇所（廊下の天井や外壁など）に関しては、補修工事を依頼し補修を終えている。引き続き、園舎改築も含め、本学施設課の迅速な環境整備が不可欠である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目6 教育実習・インターンシップ等

(1) 観点ごとの分析

観点6 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

【観点到係る状況】

今年度の教育実習の実施状況は、次のとおりである。

①ふれあい実習 9月10日

学部1年生5名

目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。幼児、児童・生徒とのふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり、子ども理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。

②附属学校園観察実習 5月21日・22日

学部3年生5名

目的：附属幼稚園での保育参加を通して保育者の幼児への配慮や環境整備や関わり方を探る。幼児への関わり方を観察・体験したり、附属幼稚園教員の1日の過ごし方の様子を受け止めたりすることにより、教員としての力量形成について自己課題の明確化を図る。

③附属校園実習オリエンテーション 7月10日

学部3年生5名

④附属学校園実習 9月2日～9月27日

学部3年生5名

目的：学習指導、幼児、生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を積み重ねることにより、教育的人間力、協働力、生徒指導力などについての自己課題を明確にし、教育活動全般にわたって基本的な指導技術を習得し、実習体験を積み重ねることにより、「教育観」「指導観」「責任感」等を培い、教員としての力量を高めることを目的としている。

⑤基礎インターンシップ 11月25日～11月29日のうち5日間

大学院幼児教育コース1年生2名

目的：子どもとの信頼関係を築き、保育実践力の育成を目指す。

⑥総合インターンシップⅠ 4月17日～5月23日のうち週2日ずつ

大学院子ども発達支援コース2年生1名

目的：新年度当初の幼稚園におけるフィールドワークやアドバイザー教員の取組を通じて、新入園児や進級児と信頼関係を築くためのカウンセリングマインドの習熟や学級経営能力の育成を目指す。また、園の一員として組織的に行動する力量の獲得を図る。

⑦総合インターンシップⅡ 10月18日～12月9日のうち週2日ずつ

大学院子ども発達支援コース2年生1名

目的：幼稚園で配属された学級におけるティーム・ティーチングとしての役割を中心として、アドバイザー教員から指示される様々な園務等も積極的にを行い、保育実践力における状況対応力、人間観・保育観の確立を目指す。

⑧幼児教育実践フィールド研究Ⅰ

大学院幼児教育コース（遠隔教育プログラム）

目的：幼稚園において保育の参加観察や記録、ディスカッション等のフィールドワークをとおして、保育環境のあり方や子どもの遊びについて、管理職、ミドル、若手保育者など様々な立場から検討を行い、保育を客観的に考察する自身の力を深化させる。

⑨幼児教育実践フィールド研究Ⅱ

大学院幼児教育コース（遠隔教育プログラム）

目的：幼稚園において特に運動会や園外保育などの行事に参加観察を行い、記録やディスカッション等のフィールドワークをとおして、子どもの遊びについて、管理職、ミドル、若手保育者など様々な立場から検討を行い、行事等について客観的に考察する自身の力を深化させる。

⑩武蔵野大学 教育実習 5月20日～6月7日

武蔵野大学教育学部幼児教育学科4年生1名

カリキュラム・マネジメント力を促す実習の工夫については、毎日、担任指導教員に教育実習録・保育案を提出するようにしている。週明けに一度、先週一週間の観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。提出に関しては、令和3年度から、ペーパーレス化・ICT化を図るため、学習管理システム（Teams）を使用していたが、今年度は大学と共有している実習用ファイルを附属幼稚園で作成した学習管理システム（Teams）でも共有できるようにした。そうすることで作業効率の向上につながった。

当初は、指導計画立案に長時間を要していたが、少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになった。保育後は、その日の幼児の生活ぶりを記録し、保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など、自らの言動を振り返りながら、子どもの姿を通して、保育の基本姿勢や考え方を学んでいった。

また、評価については、大学から示された＜別添資料6-①＞の「主免教育実習評価ルーブリック」を用いて週ごとに自己評価を実施し、自分の課題が明確になっていった。

別添資料 6-① 主免教育実習「評価ルーブリック」(附属幼稚園)

【資料】 附属学校園実習 実地教育計画表

(○全体 ●学級・学年)

週	月/日	曜	行 事	実習内容	指 導 要 項	時 間	備 考	
1	9月2日	月	午後保育日 教育実習開始 対面式 避難訓練	観察参加	○講話①：教育実習の意義（鍋山） ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について	14:45～ 15:15 15:15～	・諸書類提出	
	3日	火	第7回職員会議	保育(一部) 保育参加	○講話②：本園の人権教育について（田中） ●領域研究・環境	15:45～ 16:15 16:15～		
	4日	水	午後保育日 身体測定（4歳児）	保育(一部) 保育参加	○講話③：本園の教育課程・指導計画・日案、 幼児理解と幼児指導について（杉山） ○講話④：学級経営・学級事務（中川） ●領域研究・言葉	14:45～ 15:15 15:15～ 15:45		
	5日	木	模範保育(星組) 入園希望者参観①	観察参加	○模範保育説明・協議 ●領域研究・人間関係	13:30～ 15:30 15:30～		
	6日	金	午後保育日 みどり会理事会 身体測定（3歳児）	保育(一部) 保育参加	○講話⑤：家庭との連携について（居上） ○講話⑥：はとぼっぼのたいそう・親子ダンスについて（鍋山） ●第2週保育内容について ●領域研究・健康	14:45～ 15:15 15:15～ 15:45 15:45～		
	7日	土						
	8日	日						
2	9日	月	午後保育日 視力検査（5歳児）	保育(一日)	○親子ダンス案披露 ●領域研究・表現	15:45～ 16:15 16:15～	第1週記録 第2週計画提出	
	10日	火	ふれあい実習（1年） 入園希望者参観② 合同研究会⑦	保育(一日)	○講話⑦：保健・安全指導について（久米） ○安全点検（久米）	15:45～ 16:15 14:00～ 15:00		
	11日	水	午後保育日 聴力検査（5歳児）	保育(一日)	○講話⑧：行事教育－運動会・園外保育について（田中）	14:45～ 15:15		

	12日	木	入園希望者参観③	保育(一日)	○研究保育者決定・評価保育日程について(鍋山) ○親子ダンスビデオ撮影	15:00～ 15:30	
	13日	金	午後保育日 交通安全教室 大学芋畑マルチはがし	保育(一日)	●第3週保育内容・研究保育・評価保育について ○大学芋畑マルチはがし(※終了後、大学で解散)	14:45～ 16:30 出発	
	14日	土					
	15日	日					
3	16日	月	敬老の日				
	17日	火	入園希望者参観④ 豪壮研究会⑧	保育(一日)	○園外保育準備	13:30～	第2週記録 第3週計画提出
	18日	水	午後保育日 園外保育(芋掘り)	保育(部分) 行事参加	○研究保育指導案作成	15:15～	
	19日	木	教育講演会	保育(一日)	○研究保育指導案作成(印刷・環境準備)	14:45～	
	20日	金	午後保育日 (園外保育予備日) 学校安全の日 実習生研究保育	研究保育	○研究保育反省会 ●評価保育指導案作成 ●第4週保育内容について	15:00～ 16:00 16:00～	
	21日	土					
	22日	日	秋分の日				
4	23日	月	振替休日			14:45～	第3週記録 第4週計画提出
	24日	火	実習生評価保育	保育(一日)	●評価保育指導案作成(印刷・環境準備)	13:30～ 14:30	
	25日	水	午後保育日	評価保育①	●評価保育反省会 ●評価保育指導案作成(印刷・環境準備)	14:45～	
	26日	木	実習生評価保育 入園希望者参観⑤	評価保育②	●評価保育反省会	13:30～ 14:30	
	27日	金	午後保育日 主免教育実習終了	保育参加	○教育実習反省会	15:00～ 16:00	
	10月5日	土	運動会				
	10月6日	日	運動会予備日				

【分析結果と根拠理由】

幼稚園における幼児との直接的な関わりの過程を通して、指導教員のもと教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、実習の内容がコロナ禍以前に戻ったが、実習生が考えた運動会の親子ダンスのYouTube配信など、コロナ禍で効果的だったICTの活用を効果的に活かすことができるようになった。

指導案や保育記録の提出や、実習録の記入は、学習管理システム(Teams)の機能を使用した。実習生が学習管理システム(Teams)にアップロードした内容を、園の教員だけでなく大学の教員もリアルタイムで共有できるようにした。また、保育中にパソコンやタブレットで指導案を確認することは難しいので、担任教員や管理職、実習生分の指導案はプリントアウトし、紙媒体で確認をしたり共有をしたりする方法をとった。

実習生も、意欲的な態度で実習に取り組み、子どもに向き合う姿勢・教材研究・保育後の反省や記録等、積極的に取り組むことができていた。

教職員の指導もより高い実践的な能力や研究態度を目指した。子どもとともに生活をするという基本事項についての気づきや課題の明確化をそれぞれに図ることができた実習となった。

また、大学から担当教員が来園し、研究保育、評価保育等、実際の実習を見て指導していただく機会も設けている。大学側からの意見や質問もあったり、激励にもなったりと実習の充実につながっている。

教育実習とは別に、大学の幼児教育コースとの自然プロジェクトのボランティアとして学生が保育参加する中で、より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ、実習にもよい影響が感じられる。

大学院生の基礎インターンシップは令和元年度、総合インターンシップは令和2年度から開始し、毎年課題を改善してきた。特に、担任教員とのカンファレンスの中で、学級経営の方針や幼児理解、環境構成の意図などについて細かく話し合い、院生自身が保育の意図を明確にしながら、幼児と関わるができるようになってきている。主免実習に近い指導内容を維持できるようになってきた。また、学生も自身の研究テーマに沿った実践事例の収集を行うなど、研究分野においても有益な実習となった。

さらに、保護者アンケートの自由記述には次のような記載があり、保護者からも多くの支持と次年度への課題を得た実習であった。

別添資料 1-② 令和6年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋・原文のまま）
— 教育実習生のお子様への関わりで気付いたことをあげてください —

- 毎回実習生が来ることを楽しみにしていました。大学へ遊びに行くときも「〇〇先生おるかな？」と会えるのを楽しみにしていました。
- なかなか普段の生活の中で関わることの少ない年代の教育実習生の皆さんと接することで、親とも先生とも友達とも違う感覚で将来の話や実習生に皆さんの話を聞き、子どもなりに感じることも多かったようでした。
- 運動会でのサポートがとても助かりました。子どもたちも実習生とかかわることができて喜びを感じているように思いました。
- 家に帰ってきてから「実習生と遊んだ」など、いろいろな話を聞かせてくれました。一人一人に向き合い接して下さっているんだなと感じております。
- 受動的ではなく能動的に子どもたちとかかわる姿や学ぶ姿に感銘を受けました。
- 新しい先生が期間限定で来られた感覚と思いますが、子どもは人との出会いや別れを知り、経験できていなかった気づきがあったと思います。実習生ならではのベテラン先生にはないかわりを通じて子どもたちも楽しく過ごせたことと思います。
- 教師として子どもたちに物事の意味を辛抱強く説明したり、子どもたちが何か理解できないことやアイデアがあるときはいつでも耳を傾けてくれたりしました。
- 大学へ行く行事（芋ほり等）の時、「実習生さんに会えるかな。」と楽しみにしていたので、良いかわりをして頂いたのだと思います。ありがとうございました。
- 先生になる方が減っている中、子ども達へのかかわりを感謝しています。
- 実習中は実習生と遊んで楽しかったこと、してもらって嬉しかったことをよく話していました。実習が終っても運動会で会えるかな？大学に行ったら会えるかな？と会えることを楽しみにしていました。それだけ実習生と過ごした時間は印象深く、楽しい時間だったのだと思いました。
- 良い先生になってください。
- 毎日自己紹介してほしい。せっかく実習に来てくれているのに、子供は名前や実習生の良かった所など覚えていない。
- すごく熱心に子どもと向き合ってくれる方たちばかりで、娘は実習生の方たちが大好きとっております。園自体も更に活気づいている気がします。
- とても細やかな対応をしてくれていて、親しみ易い関係をつくってくれていたと思う。
- とてもよく子どもを見て下さり、お声がけ頂いたようで、教生の方が大好きになりました。別れの時

には、連絡先を渡してと本人（子ども）が言うくらいでした。

- 大学祭のタイミングや、教生の方に会える行事などありましたら、喜んで親子で行きたかったです。
- 子供たちと楽しそうに遊んでくれているなあと思いました。全力で子供のしたい事に付き合ってくれてありがたいです。子供もうれしかったみたいで家で教育実習生のお話をしてくれます。
- お別れの際、いつも心のこもったプレゼントをいただき、親子共々喜んでいきます。作るのが大変だっただろうと毎回申し訳なく只々感じしております。
- どの実習生も子どもと仲良くしてもらっていたと思います。そのため実習生と会えなくなる寂しさなどの感情を学ぶ機会になったのではないかと思います。ありがとうございました。
- 食わず嫌が多い子どもですが、教育実習生の方の好きな食べ物を聞いて「私も食べたい」と言ってくれました。食への関心をもたせてくださり、感謝しています。
- 子どもから教育実習生の方と遊んでもらった話など、たくさん聞かせてもらいました。とても楽しそうに話をしてくれていました。ありがとうございます！
- 教育実習生が来ることをいつも楽しみにしていました。いつもと違った先生方との関わりで新しい気づきがあったと思います。
- 子供のタイプにもよりますが、関わりがある子とない子の差は大きいと思います。
- 教育実習生の名前を覚え、家ではよくお話をしてくれました。幼稚園で子どもたちに優しく接していただけただんだと思います。
- いつもエネルギーでキラキラした目を子どもたちに向けてくださっていて、在園の先生方とはまた違った魅力たっぷりに子どもたちに接して下さること、とてもありがたかったです。
- 子どもは実習生と過ごす日々をとて楽しんでおりました。大学への園外保育の際にも、実習生に会えることをいつも期待しており、1ヶ月という短い時間にしっかりと信頼関係を築いているのだなと思いました。
- いつもお姉ちゃん先生、お兄ちゃん先生とうれしそうにお話をしてくれていました。学生なりに一生懸命頑張っていて接してくれているんだなと感じました。
- 子どもたちとどのように関わっていたのかを見ることはできませんでしたが、子どもが帰ってきたときに、実習生の名前を覚えてくれたり、遊んだことを話してくれたことが多くあったので、楽しく過ごすことができました。ありがとうございます。
- 全体的に声が小さい。もっと元気よくお願いします。
- 子どもたちはすぐに受け入れて仲良くなれるので、遠慮せず多くのことを学ばせてあげてほしいです。どんな遊びをした、どんな先生か楽しそうに家で話してくれています。
- 教育実習が始まるととても嬉しそうに話してくれます。
- 教育実習期間や運動会、その後の大学への園外保育で、教育実習生に会えることを子どもはとても楽しみにしていました。運動会で手作りのプレゼントをいただきましたが、とても大切にしています。
- やさしく子どもに接し遊んでくれる姿を通して、「憧れのお姉さん・お兄さん」「私も大学生になったらこんな風になれるかな」と将来のイメージを持てたようです。
- 子どもも教育実習生のことは大好きで、よく話をしてくれていました。楽しく関わってくれていたと思います。
- 実習生のことを子どもがあまり話してくれないので、どんな関わりをしていていたか分からない。お迎えのときに、実習生の方から「こんなことしました」など子どもと関わって気付いたことをもって保護者にアピールしてもらえると印象深くなると思う。
- 子どもが実習生の方の名前を全て覚えている事からも分かるように密接に関わっていただいているのだと感じます。
- 一人一人丁寧に心のこもった接し方をしてくれていると感じた。手作りのプレゼントを子どもは嬉しそうにもらっていた。教育実習期間は帰りの車中で実習生の皆さんとどんな遊びをしたかを話していた。
- 園内で、子ども達とのかかわりはとても濃いものだと、メッセージカードなどをみても推察できるの

ですが、「伝え方・伝わり方」にもう少し重きをおくと、かかわりがより、深いものになるのでは、声が小さめ、はずかしいのが、あまり伝えたいことが、いまひとつ分からない場面がありました。と思いました。

- 教育実習生の先生方の体験(大学がどんなところで、どんな事をしていて、などや小学校~高校などのことも)を少しずつお話しして下さった事で娘はこれから進んでいくであろう 小学校~大学への道にとっても興味をもった様です。大学生の先生もまだ勉強している事は子供にとってもおどろきでもあり、自分との距離が近づいた感じがしたとも話しておりました。親ではさせてあげられない大切な出会いだった様です。
- 短い期間ではありますが、全力で関って下さっていました。園から帰ってきて毎日教育実習生の先生の話をしていたので たくさん遊んで下さっているのだと感じました。
- 一生懸命子供と向き合って関って下さっていると思いました。本力的な部分(外でひたすらおにごっこ、サッカーなど)で親にはキツイ ことを若い先生がして下さってとても喜んでいました。
- 元気で優しい学生さんの姿を見て、子どもだけではなく、親も皆さんみたいに頑張ろう!!と思うことがよくありました。勉強に実習に色々大変だとは思いますが陰ながら応援しています。
- あたたかい関わりをして下さり、楽しい時間を過ごせていました。ありがとうございます。
- 本当に一生懸命に関わってく下さりありがとうございます。困難もあるかと思いますが、子どもたちは先生方がいつも大好きですとお伝えください。
- 若い力で子どもと全力で関わって下さっている姿や、帰りに子どもたちとの活動内容を一生懸命に話されている姿は、私たちから見ると本当に新しい先生が生まれていく瞬間を子どもと共有できてとても嬉しいです。
- 「楽しく遊んでくれた」などの声が多く聞けて、熱心に関わってくれていたことがよく伝わってきました。

別添資料 1-② 令和6年度幼稚園評価アンケート結果報告書

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

一昨年度から、実習生の週ごとの実習内容自己評価に関して、附属小学校や附属中学校と評価方法を揃え、大学から示された「主免教育実習評価ルーブリック」を用いている。それによって、実習内容自己評価の内容が、教師としての資質・能力、評価する自分の姿・姿勢、具体的な場面などより具体的に考えられるようになった。

また、学習管理システム(Teams)を使用することで、大学教員との実習内容の共有をより効果的に行うことができた。さらに、記録と計画をICTと紙媒体の効果的な併用により、限られた実習(勤務)時間内で、教員と実習生が指導の内容を共有しながら、日々の保育の反省を行うことができた。

ふれあい実習、観察実習の実施、ボランティアでの保育参加、大学での園外保育への参加など、9月の主免教育実習前に実際の園や子どもの様子を見ることで、教育実習のスタートをスムーズにきることができている。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握できることにより、実習期間中の指導・対応もしやすい。

学級配当は実習生の希望も考慮して配属している。学生にとっても主免教育実習前の準備などがしやすく、教育実習期間中だけは十分にとれない教材研究の時間を確保することにつながっている。

学生の姿からは、教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けようと一

生懸命実習に取り組もうとしており、子どもとともに生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化をそれぞれが図った結果、実習最後の反省会の内容や実習の記録から多くの成果が得られた実習となったことがわかる。

基礎インターンシップ・総合インターンシップでは、今年度も多くの成果を得ることができた。柔軟な指導内容が設定可能になったことで、主免実習に近い指導内容を維持できるようになり、園生活の中で院生自身が自ら考えて行動する姿が増え、園運営に自主的な姿勢で向かうことができていた。

大学の教員及び附属学校校長で構成されている実地教育専門部会にて、プロジェクトとともに充実した教育実習の在り方について話し合い、大学と附属校との連携を図っている。

【改善を要する点】

毎年の課題となっているが、保育指導案・資料作成と、保育環境の構成について、特に研究保育や評価保育の前は、指導案作成に時間を割いてしまう傾向にある。両方のバランスを考えながら、実習生が効率的に準備ができる状況をつくっていく必要がある。

主免実習後、紙媒体のまとめた実習録の提出までに一定期間があくため、実習最終週の記録などの提出が一部の学生の中で遅れてしまうことがある。学習管理システム（Teams）を使用することで園に出向かずとも提出できるので、最終週の記録についても提出日を伝えておき、記憶の新しい内に指導ができるように今後は改善する。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

Ⅲ 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	別添資料番号	資料名
1	別添1-① 別添1-② 別添1-③	令和6年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果 令和6年度幼稚園評価アンケート結果 生活プラン（2014.8.1発行）
2	別添2-① 別添2-②	ほけんだより2月号（2025.2.4発行） 令和6年度安全管理計画－危機管理マニュアル
4	別添1-③ 別添4-① 別添4-②	生活プラン（2014.8.1発行） 令和6年度参観者アンケートグラフ・まとめ 令和6年度幼児教育研究会アンケートグラフ・まとめ
5	別添1-①	令和6年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
6	別添1-② 別添6-①	令和6年度幼稚園評価アンケート結果報告書 主免教育実習「評価ループリック」（附属幼稚園）